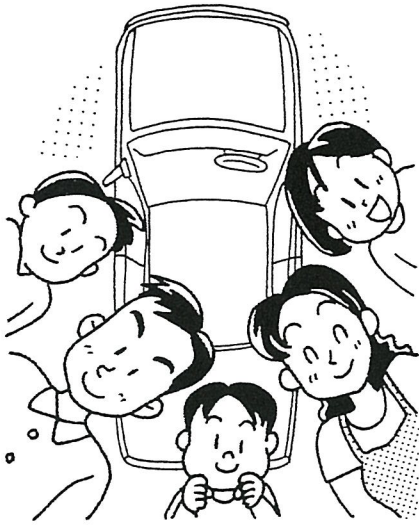




若い命を交通事故から守る

子どもの命は大人が守る

大人はシートベルト 子どもにはチャイルドシートを



免許をもっている人の割合は、今や男性が8割以上、女性は5割を超えています。車を使う家庭では、子どもと一緒に乗せる機会が多くなっていますが、同時に増えているのが幼い子どもの自動車乗車中の死傷事故です。危険を予測できない子どもの命は、大人が守らなければなりません。チャイルドシートの着用は大人の責任です。

子どもの命を守るのは親の役目。子どもがどんなに泣いても抱っこはせず、チャイルドシートに座らせましょう。こうした習慣の積み重ねが、やがて大人になりシートベルトの着用意識に結びつくはず。親が行う大事な安全教育の一つです。

死傷者数は1・6倍増
こうして、車に乗っていて交通事故に遭い、亡くなったりがをしたりした6歳以下の子どもの数は、10,152人(平成9年)。平成4年(6,226人)と比べ、約1・6倍に増えています。

チャイルドシートとは、車が万が一衝突した際に、子どもの事故被害を減らす効果のある保護装置です。総務庁などの発表によれば、チャイルドシートは事故で死亡する確率を八分の一に減らすことが分かっています。しかし、その着用率は、8%にも満たないのが現状です。街角では最近、子どもを助手席に座らせたり親が抱えたりする姿が、しばしば見られます。しかし、これで万が一のとき、本当に大丈夫でしょうか。仮に、体重10kgの幼児を乗せた車が時速30kmで衝突したとすると、その前方への力は瞬間的に約85kgにもなります。子どもはダッシュボードなどに衝突するか車外に飛び出してしまいます。たとえ親が抱えていたとしても、とついでい支えることはできません。

〈チャイルドシート・利用のポイント〉

●チャイルドシートは後部座席に
〈やむを得ず助手席に取りつける場合〉エアバック装着の助手席に取り付けるときは、シートを一番後ろに下げ、必ず前向きに取り付ける。

学童用シート
(ジュニアシート)
体重15~32kg程度
年齢4~10歳程度



●しっかり固定する…
取扱説明書をよく読み、
しっかり取り付ける。

幼児用シート(チャイルドシート)
体重7~18kg程度
年齢6か月~4歳程度



乳児用ベッド
(ベビーシート)
体重10kg未満
年齢0~12か月程度
●チャイルドシートは
赤ちゃんのときから。
●嫌がっても着けさせて
習慣にしましょう。

●体格に合ったチャイルドシート
を選ぶ